

症例の概要

No.	患者		1日投与量 投与期間	副作用
	性・ 年齢	使用理由 (合併症)		経過及び処置
1	女 10歳 未満	水痘免疫 (なし)	0.5mL 2回	<p>帯状疱疹、無菌性髄膜炎</p> <p>接種日 A医院にて、本剤1回目を接種。 接種6か月後 A医院にて、本剤2回目を接種。 接種3年半後 胸背部にチクチクした疼痛が発現。 症状発現翌日 水疱が左上腕、左側胸部に発現。B病院皮膚科を受診し、帯状疱疹と診断。アシクロビル軟膏を塗布。そう痒に対してケトチフェンフマル酸塩を処方。</p> <p>症状発現3日後 夜、嘔吐が1回発現。 症状発現4日後 C病院小児科を受診。アシクロビルを内服するも、嘔吐。悪心に対し、ドンペリドン坐剤を投与。発熱を認めた。 症状発現5日後 再度嘔吐が発現し、D病院を受診。髄液検査の結果、リンパ球優位の細胞数増加を認め、入院。無菌性髄膜炎と診断。アシクロビルの静注投与を開始、ビダラビンを塗布。解熱。</p> <p>症状発現9日後 嘔吐は消失。 症状発現10日後 水疱はすべて痂皮化。 症状発現12日後 退院。アシクロビルを内服へ変更。 症状発現19日後 アシクロビルの内服を終了。</p> <p>PCR法による水痘ウイルス同定検査の結果、症状発現5日後の髄液から水痘ウイルスDNAは検出されなかったが、症状発現7～9日後の痂皮および水疱液からワクチン株由来水痘ウイルスDNAが検出された。</p>
		併用被疑薬：なし 併用薬：なし		